

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.106
2023. September

発行者 琉球病院事務部長
大城 英作

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

● 精神科急性期病棟紹介

東Ⅰ病棟師長 中井 邦彦

当病棟は、平成31年4月からスーパー救急病棟として運営しています。入院患者は精神科急性期特有の陽性症状や著明な陰性症状を呈しているため、リスク管理を中心とした精神科治療が優先され、隔離拘束などの行動制限やセルフケア援助を中心とした手厚いケアを必要とします。年齢層は10代から90代まで幅広く、日々、精神症状や人格特性への理解、観察力や状況判断、リスクアセスメント能力、コミュニケーション能力等、多様な看護能力が求められます。

今年度に入り、新型コロナウイルスの5類移行の影響で、社会全体がコロナ禍以前の社会状況に近づきつつある中、地域で暮らす精神疾患患者の生活にも進学・転職、引越など大きな変化が生じ、調子を崩し状態を悪くされた方が多くいました。

当病棟の使命は、患者さんに寄り添いながら、早期から患者さんへ効果的な治療を提供することで、精神症状からの回復を支援し、社会復帰を促進していくことです。これからも患者さんに寄り添い、多くの患者さんの回復を支援していきたいと考えています。



● クロザピン治療病棟紹介

東Ⅱ病棟師長 高江洲 美寿々

当院は日本で初めて治療抵抗性統合失調症の治療として、クロザピン薬物療法を開始した専門病棟です。クロザピンは重い精神症状の改善だけでなく自傷・他害、再入院のリスクを低下させるなど、様々な有効性を持つことで近年その治療効果に注目が集まっています。クロザピン治療はクリニカルパスを用いて、入院期間6ヶ月を目標に掲げ、約1か月に1回のケース会議（患者さん・家族・医師・看護師・PSW・退院先の施設・地域の役所関係者等）で患者さん・家族を中心に話し合いをしながら、計画的に治療を行い積極的に退院支援を進めています。患者さん・家族にとってより良い環境を整え、地域移行支援に向けて努力して参ります。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 中軽米 範恵

今年6月より、アルコール・薬物専門病棟が再稼働しております。当院ではご本人様の治療だけではなく、ご家族支援として依存症の正しい知識の習得、新しい本人とのコミュニケーションの仕方を提案させて頂いております。また、ご家族の率直な気持ちを安心してお話しして頂ける場にもなっています。入院・通院中の家族が主な対象となりますが、現在どこの精神科医療機関に繋がっていない方のご家族もご参加可能です。対象の方がいらっしゃいましたら、下記までお問い合わせください。

アルコール家族教室：毎月第1・3金曜日 13:30～15:00

問い合わせ先：地域連携室、東Ⅲ病棟



院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザピン外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30～17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医師 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ392例になりました。2023年7月のCLZ導入数は3例で、そのうちの2例は他の医療機関からの紹介例でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://drs-net.novartis.co.jp/dr/product/clozaril/guide/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

子ども心療科の外来診療では、感染対策のために一時的に撤去しておりましたご家族向けの書籍コーナーを待合室に再設置いたしました。

来院されるお子さまの発達検査や心理検査の際は、どうしてもご家族の方の待ち時間が発生してしまいます。その時間に、お手に取っていただけるような、子どもの発達や心についての理解を深めるための書籍や資料を取り揃えております。ご家族が理解を深める一助になった事例もあり、診察室以外の場所での治療的な役割を担ってくれています。

今後も書籍や資料のバリエーションを増やし、様々な工夫を取り組んでいけたらと考えております。



重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

感染症や災害への対応について障害福祉サービス事業者等へ取り組みを強化する事が求められています。感染症の知識や対応方法及び必要なサービスが安定的・継続的に提供される事が重要となります。新型コロナウイルスや台風被害の多い沖縄県も、今後重要な課題となります。利用者の安全確保、サービスの継続、職員の安全確保等、障害福祉サービス事業者としての重要な役割として取り組んでまいります。

DPAT 活動報告

心理療法士 前上里 泰史

<当院の災害対策委員会の取り組み>

8月上旬に接近した台風6号は沖縄県内に甚大な被害をもたらしました。交通機関の麻痺、停電に加え、貨物船が入港できず、台風後も数日間食料が届かず、スーパーやコンビニに物が無い日々が続きました。県内の精神科病院においても停電や暴風雨によって診療に影響が出た医療機関がありました。当院の災害対策委員会では、このような事態への備えおよび起きた後の対応について、シミュレーションを定期的実践しております。例えば、院内の各部署に非常用電源がどこにあるか、何日持つのか、非常用食料の備蓄量、職員が出動できない場合少ない職員でどう乗り切るか、院内が被災したとき患者さんの命をどう守り、SOSをどこに出すのか、そして速やかに院内対策本部を立ち上げる初動の動き等、院内全体で取り組んでおります。幸い今回の台風で当院は大きな被害はありませんでしたが、今後も台風や災害への備えに取り組んでいきたいと思っております。

包括的地域精神医療

訪問・デイケア師長 長嶺 早苗

2023年5月8日からCOVID-19が感染症法上5類へ移行後、琉球病院デイ・ケアも感染拡大予防のために中止していたデイケア・プログラムを、徐々に再開しはじめました。「火・水会」と称したアルコール依存症の利用者への取り組みや、11月に院内で行われる文化祭へ展示する作品作り等に励んでいます。今回の台風6号の影響により、今まで収穫を楽しみにしていた菜園は残念なことにピーマンが被害をうけましたが、茄子やオクラは再生の気配、収穫を楽しみに出来そうです。菜園の看板は壊れてしまいましたが、現在利用者の方々と一緒に新しい看板を製作中です。まだまだ課題はありますが、利用者の方々に楽しんでいただけるプログラムを工夫していきたいと思っております。